（９）歯・口腔の健康

【基本的な考え方】

歯・口腔の健康は、口から食べる喜び、話す楽しみを保つうえで重要であり、精神的、社会的な健康にも大きく関係します。

これまで、すべての国民が生涯にわたって自分の歯を２０本以上残すことをスローガンとした「８０２０（ハチマルニイマル）運動」が展開されているところですが、超高齢社会の進展を踏まえ、より早い年代からう蝕（むし歯）・歯周病（注）などの歯科疾患を予防することが重要です。

また、歯の喪失抑制に加え咀嚼機能を始めとする口腔機能の維持・向上を推進することは、生涯に渡る健全な口腔保健の確立につながります。

（注）歯周病

歯肉だけに炎症が起こる病気を歯肉炎、他の歯周組織にまで炎症が起こっている病気を歯周炎を言い、その総称。

【現状と目標】

《歯の本数》

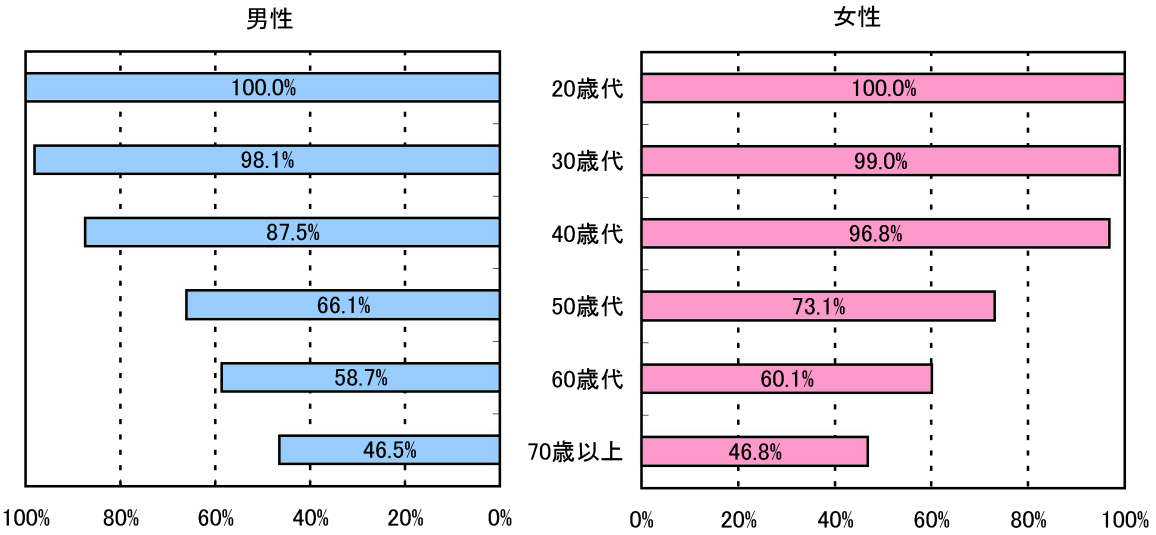
歯の喪失は、食事をしたり話しをするなど生活に大きな影響を与えます。また、歯の喪失と寿命との間にも関連性があることが明らかになっています。

歯の喪失の主な原因疾患は、う蝕（むし歯）と歯周病で、幼児期や学齢期でのう蝕予防や、成人における歯周病予防の推進が重要となっています。

平成２３年度健康づくりアンケート調査では、歯の喪失は男性では４０歳代、女性では５０歳代と若い年代から始まっています。また、全道と比較して、７０歳代で歯の平均本数が多い傾向にあります。

「８０２０運動」に加え、より若い世代から歯の喪失を防ぐため「６０歳で２４本」、「４０歳で喪失歯がない」を目指して対策を推進していきます。

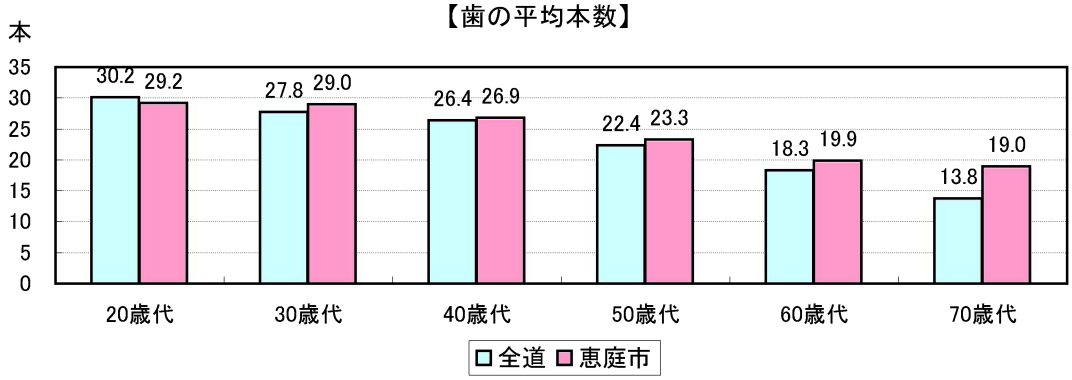
【自分の歯が20本以上ある人の割合】



60歳代で24本以上の自分の歯を有する人	男性	38.7%
	女性	46.3%
40歳代で喪失歯のない人	男性	57.5%
	女性	65.1%

※平成23年度恵庭市健康づくりアンケート調査

【歯の平均本数】



※平成23年度恵庭市健康づくりアンケート調査
※平成23年道民歯科保健実態調査報告

目 標　歯の喪失防止

《歯周病の状況》

歯周病は、歯の喪失をもたらす主要な原因疾患であるほか、糖尿病や循環器疾患、喫煙と深い関係があることなども報告されています。

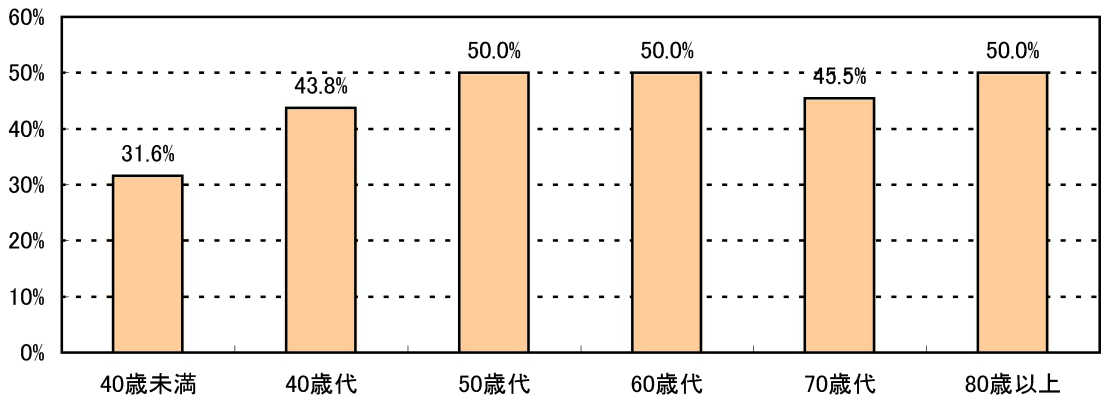
歯ぐきの腫れや歯みがき時の出血、口臭は、歯肉の炎症の指標となります。

平成２３年度健康づくりアンケート調査では、「歯ぐきが腫れている」と回答した割合は、２０歳代で１０．７％となっています。

また、市の成人歯科健診の受診者中、進行した歯周病（４mm以上の歯周ポケット）を有する人は５０歳代以降において約半数にのぼっています。

生涯にわたり、歯・口腔の健康状態を把握し歯周病予防に取り組むため、定期的な歯科健診受診の推進などが必要です。

【進行した歯周病を有する人】



※ 平成23年度恵庭市保健福祉部保健課

目 標　歯周病を有する人の割合の減少

《乳幼児・学齢期のう蝕》

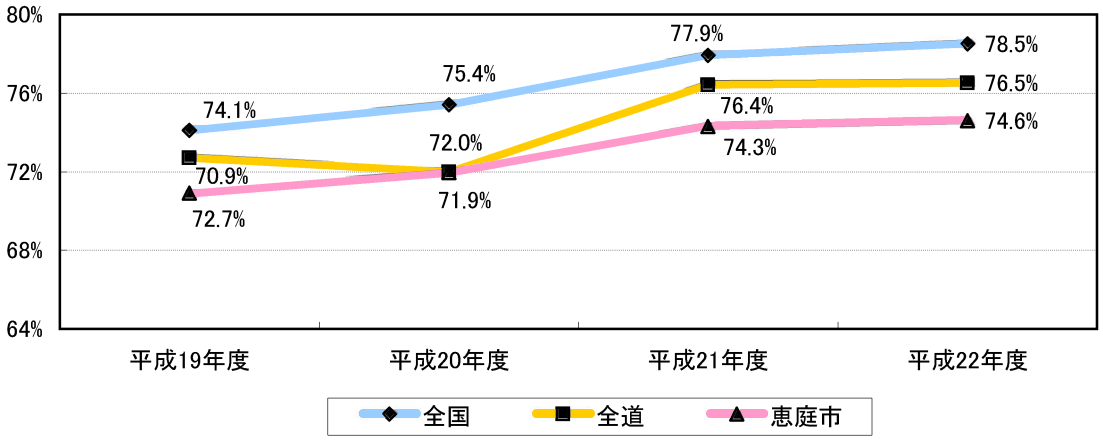
乳歯では、市の３歳児でう蝕がない児の割合は増加していますが、全国や全道と比べると低い傾向にあります。また、市の１歳６ヶ月児でう蝕がない児の割合は減少傾向にあり、う蝕の低年齢化が懸念されます。

永久歯についても、市では永久歯のう蝕の代表的評価指標である１２歳児の一人平均う歯数は減少傾向にありますが、全国と比較すると高い状況にあります。

生涯にわたる歯科保健の中でも、特に乳歯咬合の完成期である３歳児のう蝕有病状況の改善は、乳幼児の健全な育成のために不可欠であり、う蝕の低年齢化を防ぐためにも乳歯萌出直後からの歯科保健が必要です。

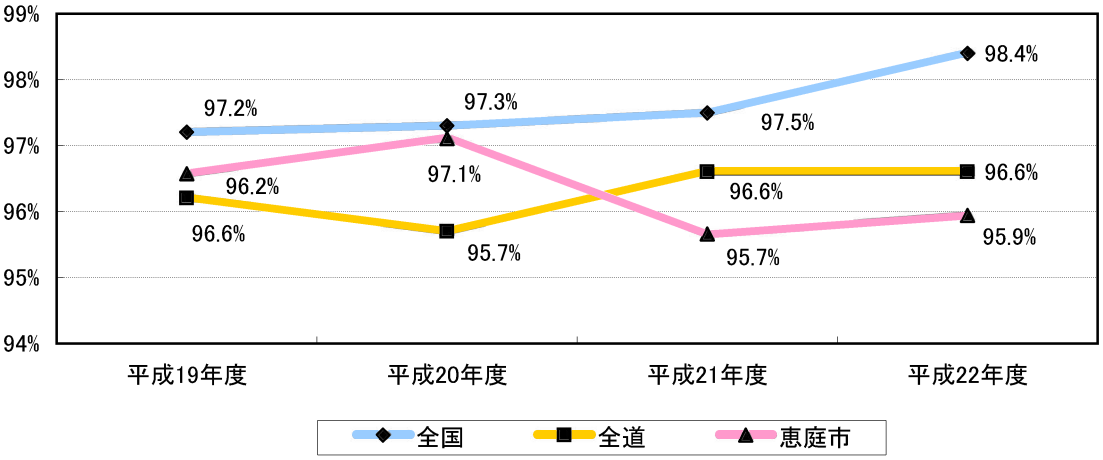
また、乳幼児期の歯科保健は、保護者に委ねられていることが多いため、妊娠中から生まれてくる子の歯の健康に関する意識を持てるよう、妊娠期からの歯科保健事業も合わせて継続していきます。

【3歳児歯科健診におけるう歯の無い児の割合】

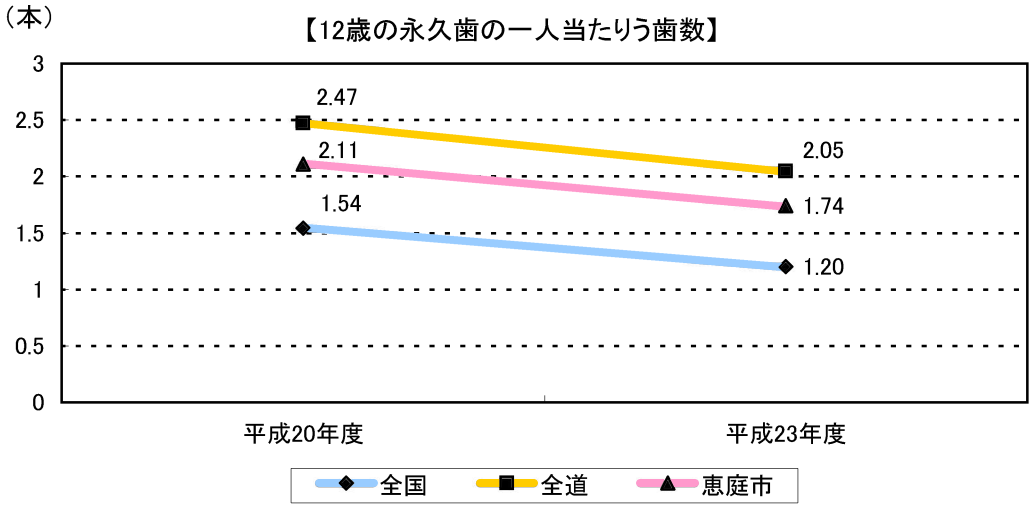


※恵庭市保健福祉部保健課、厚生労働省健康局母子保健課（全国・全道）

【1歳6ヶ月児歯科健診におけるう歯の無い児の割合】



※恵庭市保健福祉部保健課、厚生労働省健康局母子保健課（全国・全道）



※学校保健調査

目 標	乳幼児・学齢期でう蝕のない人の増加

【 対 策 】

	次世代	働きざかり	高齢者
個人・家族・地域の取組み	●自分に合った口の中の手入れ方法を身につけよう。 ●よく噛んで食べよう。 ●かかりつけの歯科医を持ち、年に１回歯科健診を受けよう。		
	●フッ素を利用しよう。	●歯に関心を持ち、６０歳で２４本の歯を保とう。	●歯に関心を持ち、８０歳で２０本の歯を保とう。

市の取組み

①ライフステージに対応した歯科保健対策の推進

事業名	概　要	担　当
保健指導	歯科衛生士等が、妊婦、乳幼児、成人、高齢者などそれぞれのライフステージに対応した歯科保健に関して指導を行います。また、要介護状態となることを予防するための口腔保健の指導も行います。 ・乳幼児健診歯科指導　・妊婦歯科保健指導 ・口腔機能向上教室	保健課
健康相談	歯の健康に関する個別の相談に応じ、必要な指導・助言を行います。 ・健康、育児ほっとダイヤル　・言語嚥下相談 ・ライフステージに応じた歯科保健相談	保健課
訪問指導	自立した日常生活が送れるよう、口腔機能の向上が必要な高齢者の家庭に訪問し、生活実態に合った指導を行います。 ・訪問型介護予防事業（口腔機能の向上）	保健課

②歯科保健に関する知識の普及・啓発の推進

事業名	概要	担当
健康教育 講演会	歯科口腔保健に関する知識及び歯科疾患の予防に向けた取り組みを普及啓発していきます。 ・町内会や企業への出前講座 ・老人クラブ健康学習会 ・妊婦教室歯科保健講話　・育児教室歯みがき講話 ・歯科医師による健口教室 ・言語嚥下講演会　・歯科保健講演会	保健課
健康まつり	歯科保健について広く一般市民を対象に、意識の向上を図り広く啓蒙する機会とします。	保健課
学校教育	自らの口腔衛生を保持・増進する健康教育を推進します。	教育委員会

③専門家による定期管理の支援の推進

事業名	概　要	担　当
健康診査・検診	歯科医師、歯科衛生士によるライフステージに応じた歯の健康づくりの支援、指導を行ないます。 ・1歳6ヶ月児歯科健診　・2歳児歯科健診 ・3歳児歯科健診　・成人歯科健診 ・幼稚園、保育園歯科健診　・学校歯科健診	保健課 保育課 教育委員会
フッ化物事業	乳幼児期からのフッ化物応用等による効果的なむし歯予防の推進・実施を行います。 ・乳幼児フッ素塗布 ・幼稚園、保育園での集団フッ化物洗口 ・学齢期の集団フッ化物洗口	保健課 保育課 教育委員会

	項目	区分	現状	平成29年度	参考(国＝目標値)	出典
評価指標	歯の喪失防止	80歳で20歯以上の自分の歯を有する人の割合の増加	―	**増加傾向**	50% （平成34年度）	―
		60歳代で24歯以上の自分の歯を有する人の割合の増加	男性　40.3% 女性　47.4% （平成23年度）	**増加傾向**	60歳 70% （平成34年度）	恵庭市健康づくりアンケート
		40歳代で喪失歯のない人の割合の増加	男性　59.0% 女性　65.1% （平成23年度）	**増加傾向**	40歳 75% （平成34年度）	恵庭市健康づくりアンケート
	歯周病を有する人の割合の減少	20歳代における歯肉に炎症所見を有する人（歯ぐきの腫れ）の割合の減少	10.7% （平成23年度）	**現状維持**	歯ぐきの腫れ、出血いずれか該当 25% （平成34年度）	恵庭市健康づくりアンケート
		40歳代における進行した歯周炎を有する人の割合の減少	43.8% （平成23年度）	**減少傾向**	25% （平成34年度）	恵庭市保健福祉部保健課
		60歳代における進行した歯周炎を有する人の割合の減少	50% （平成23年度）	**減少傾向**	45% （平成34年度）	恵庭市保健福祉部保健課
	乳幼児・学齢期でう蝕のない人の増加	3歳児でう蝕がない人の割合の増加	74.6% （平成22年度）	**増加傾向**	80% （平成34年度）	恵庭市保健福祉部保健課
		12歳児の一人平均う歯数の減少	1.74本 （平成23年度）	**減少傾向**	1.0本 （平成34年度）	学校保健調査